

第54回医家先哲追薦会について

岡田 靖雄

青柿舎(精神科医療史資料室)

「日本医史学会の歩み」(『日本医史学会総会百回記念誌』, 日本医史学会, 東京, 2000)に, 小川鼎三「医家先哲追薦会について」(『日本医史学雑誌』第21巻第4号, 1975)の, 第54回医家先哲追薦会は“B29空襲のため中止となった. しかし一部の役員が回向院に参拝したので, 第五十四回の追薦会は成立したと考える”を引用し, “のちに日本医史学会総会の回数をかぞえるときに, この3月4日が問題となる. 当日の東京空襲の状況をしらべなくてはなんともいえぬが, 空襲下に回向院に参拝に行くのは, よほど勇気のいることであったろう. いかれた役員はどなただろうか”と書いた。

日本医史学会総会の前身である医家先哲追薦会は観臓の日である3月4日(本来は旧暦であったが)に, 有志が小塚原(1922年に回向院に小塚原観臓記念碑が建設されてからはそこに)に参集し, そののち回向院内会場で講演などをおこなっていたのである。

ところで、『医譚』復刊第92号(2010年)に掲

載の白井順「三木栄宛の手紙——その二」にのっている山崎佐の昭和22年2月6日づけ封書には“二十年は□年創□のためとくに何れの仕事もせず, ただ三月四日の先哲追薦会に五十四年の風紀のごとく千住小塚原回向院へ永代供養料(松田先生外 □□されし死者に対し)を供め, 後講演会(小生が年中行事と伝染病予防と題し)を開催しのみを終り候”とあった。つまり, 小川がしるしたとおり, 第54回医家先哲追薦会はちゃんと成立していたことが, ここに確証されたのである。回向院をふくむ荒川区千住9丁目は, 1945年3月9日夜から10日にかけて空襲をうけた。

わたしは, 1954年の日本医史学会総会が第56回とされていることに疑念をさしはさみ, それは第57回か第58回とかぞえるべきだったろう, とするした。今回第54回医家先哲追薦会の成立が確証されたので, 第56回総会は第58回総会とするべきであった。したがって, 第100回総会も実は第102回総会だったのである。